

平成28年度東北ブロック研修会の報告

日 時：平成28年8月27日（土）13時～16時30分

場 所：郡山市民交流プラザ

参加者：75名

- ①保健師長会活動報告：全国保健師長会 谷戸典子副会長
- ②調査研究班報告：「地域包括ケアシステム構築における保健所・市町村保健師の保健活動にする研究」：札幌市 関 靖子氏
- ③講演「地域に責任を持つために保健師に必要な資質 ～最初の一步は、地域を見る力～」
立命館大学 地域健康社会学研究プロジェクト 教授 早川岳人氏
- ④活動実践報告
 - ・「いわき市への避難者に対するいわき出張所の健康支援活動」
福島県保健福祉部 障がい福祉課 主幹 菊地とも子氏
 - ・東日本大震災における保健師の体験記“希路”について
郡山市保健所総務課 主任技査兼係長 斎藤恵子氏
- ⑤グループワーク
「地域に責任を持つ活動を推進する最初の一步は、何から踏み出すか」

内 容：立命館大学の早川教授の講演では、「保健師の活動指針」の「地域診断に基づくPDCAサイクルの実施」について、既存の資料を使いながら地図に落とし込むことなどで地域の課題を浮き彫りにし、住民への動機づけのきっかけとすることの必要性について話されました。また、データだけではなく、地域住民として話をしていく上で出てくるキーワードも重要なものであり、これも科学となっていく。これらを書き留めていくことも地域を見る力にもなっていくとのことでした。また、今、保健師に求められるものは「プレゼン力」である。相手のツボをおさえ思いをきちんと伝えられる力をつけていくことが必要ということを強調されておりました。参加者からは、「地域診断やPDCAサイクルは、苦手意識があったが、日頃感じていることの裏付けとしてデータの整理から始めようと思いました。」などの意見が聞かれました。

グループワークでは、保健師の分散配置が進む中で各自治体が創意工夫しながら地区診断を実施している状況や人材育成について、プレゼンする力の必要性など話し合われました。また、青森県では、知事と市町村保健師との懇談会を実施しているとの報告があり、ひととき参加者の関心が高まった一幕でした。

最後に次期開催県である青森県の加賀田理事より、青森県の魅力（ねぶたや日本一難解な方言）のPRがあり、次年度の再会を約束し、閉会となりました。

